

Graat、au PAYの内製アジャイル開発でAIエージェントを活用した 企画・要件定義改革を支援

AIエージェントデザインサービス「EBAAD（エバード）」を通じ、属人化した熟練者の知見を
業務プロセスに組み込み、組織で再利用できる状態へ

グロースエキスパートナース株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：渡邊 伸一）の子会社であるグロース・アーキテクチャ&チームス株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：鈴木 雄介、以下 Graat）は、KDDI株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：松田 浩路、以下 KDDI）との協働により、KDDIが提供するQRコード決済サービス「au PAY」の内製アジャイル開発において、AIエージェントを活用した企画・要件定義改革を支援しております。

本取り組みでは、企画・要件定義の一連の流れの中にAIエージェントを組み込み、熟練者が持つ判断観点や進め方のノウハウを再利用可能な形で反映することで、企画と開発のコミュニケーションの質を高め、より本質的な要件価値の議論や適切な実現方法の検討に時間を使いやすい状態を実現いたしました。

本事例は、Graatが提供するAIエージェントデザインサービス「EBAAD（Enterprise Business AI Agent Design、エバード）」の代表的な実践事例です。



EBAADは、企業内に蓄積された熟練人材の判断や対応のノウハウを、AI活用によって業務プロセスに組み込むコンサルティングサービスです。属人化した知見を、継続的に価値を生み出す仕組みに転換し、組織として活用できる状態を設計・運用いたします。生成AIやAIエージェントを単なる業務効率化ツールとして導入するのではなく、業務の流れや役割分担そのものを見直し、AIを継続的に機能させることで、企業の組織能力向上と持続的な競争力強化を支援いたします。

背景：企画・要件定義における属人化が、品質ばらつきと連携負荷を生んでいた

KDDIでは、au PAYの内製アジャイル開発を推進する中で、AIを開発プロセスに活用する取り組みを進めてまいりました。一方、企画・要件定義の領域では、熟練した担当者や開発者が持つ判断観点や進め方のノウハウが属人化しやすく、担当者によって成果物の品質にばらつきが生じるという課題がございました。

企画・要件定義では、「何を実現すべきか」と「どのように実現するのが適切か」を、業務要件、システム影響、関係者視点などを踏まえて整理する必要がある一方で、こうした判断の多くは経験豊富な人材の暗黙知に支えられており、ドキュメント整備やトレーニングだけでは、組織全体で再現することが難しい状況でした。

Graatはこの課題に対し、AIを単なるツール導入や作業効率化にとどめず、企画・要件定義の進め方そのものを見直し、AIエージェントを業務の流れに継続的に組み込むことで、属人化した知見を組織で活用可能な形へ転換する支援を行っております。

取り組みの概要：AIエージェントを組み込んだ企画・要件定義支援の仕組みを協働で設計・実装

GraatはKDDIのパーソナル事業統括本部 システム開発本部 アジャイル開発部と協働し、au PAYに関する複数チームを対象として、内製アジャイル開発における企画・要件定義を支援する仕組み「バックログ作成支援システム」を設計・実装し、運用・改善まで伴走いたしました。

本取り組みの主眼は、企画・要件定義の一連の流れ全体を対象に、人とAIの役割分担を見直し、AIが継続的に機能する業務プロセスを設計することにあります。Graatは、構想整理、業務の可視化、AI前提でのプロセス設計、仕組みの実装、現場での運用改善までを一貫して支援しております。

取り組みの特長：思考支援と作業代行を組み合わせ、要件定義の質を高める

Graatでは、AI活用を単純な自動化ではなく、「思考支援」と「作業代行」を組み合わせて設計することを重視しています。企画・要件定義では、AIが人に代わって要件を決めるのではなく、人が考えるべき価値や実現方法の検討を支えうえて、作業を代行する形が重要です。

バックログ作成支援システムでは、たとえば以下のような支援を行っております。

1. 要件の検証

背景、目的、手段などの関連性を確認し、必要な情報の不足や論理的整合性の確認を支援

2. 必要な知識の補足

関連する既存システムや周辺情報を参照し、検討に必要な前提知識を補い、担当者の経験差を補完しながら企画・要件定義を推進

3. 関係者視点でのレビュー

エンドユーザー、エンジニア、業務担当者などの複数視点をシミュレーションしたレビューを実施し、担当者本人だけでは気づきにくい論点の検討を促進

4. バックログ生成・登録

整理された要件や周辺情報をもとにバックログ草案を生成し、チケット管理ツールへの登録まで支援

成果：企画と開発のコミュニケーションの質を高め、属人知を組織の資産へ

本取り組みにより、企画・要件定義において、企画担当者と開発者が認識をそろえながら、より本質的な要件価値の議論や、適切な実現方法の検討に時間を使いやすい状態が生まれております。

また、AIエージェントが要件整理、観点補完、レビュー支援を担うことで、経験の浅い担当者でも一定の観点を踏まえて企画・要件定義を進めやすくなり、有識者への過度な依存を和らげる効果も生まれております。さらに、熟練者が暗黙的に持っていた判断観点や進め方のノウハウを、AIを通じて再利用可能な形に置き換えることで、これまで個人の中に閉じていた知見が、組織の中で活用・継承できる資産へと変わり始めております。

本取り組みは現在、au PAYに関わる複数チームで運用されており、今後さらなる展開を進めていく予定です。

今後の展望

Graatは今後も、KDDIとの協働を通じて、本取り組みの対象範囲を拡大し、au PAYの内製アジャイル開発におけるAI活用の高度化を支援してまいります。

またGraatは、EBAADを通じて、今回のような企画・要件定義領域にとどまらず、熟練者の判断や進め方が属人化しやすいエンタープライズ業務全般に対して、AIエージェントを活用した業務変革支援を広げてまいります。

各社コメント

グロース・アーキテクチャ&チームズ株式会社

代表取締役社長 鈴木 雄介

EBAADは、組織の中にある知見や判断軸をAIエージェントに反映し、企画・要件定義・開発といったプロセスの中で、部門や立場を越えた対話の質を高めていくためのデザイン手法です。

KDDI様との取り組みでは、au PAYという大規模なプロダクト開発の現場で、その考え方が実際に機能することを共に確かめることができました。システム開発に限らず、複数の人が関わりながら判断し、ものごとを形にしていくプロセスにおいて、さまざまな組織や領域に広がっていける可能性を感じています。今後もKDDI様とともに、AIが組織の力を引き出す新しい形を探ってまいります。

KDDI株式会社

パーソナル事業統括本部 システム開発本部 アジャイル開発部 副部長 藤木 潤

当初はAIによる作業効率の向上を期待していましたが、EBAADの考え方をもとに業務の進め方を見直す中で、それ以上の価値を実感しています。企画や要件整理の段階で論点をそろえやすくなったことで、企画部門と開発部門の間で、より本質的な議論を進めやすくなりました。

AIは個人の生産性を高めるものとして語られがちですが、組織としてよりよい判断や連携を支える役割も大きいと考えています。今回の取り組みは、そうした考え方を具体化する実践の一つになっています。今後もGraatとの協働を通じて、この取り組みをさらに発展させていきたいと考えています。

本件に関する事例インタビューは以下にて掲載しております。ぜひご覧ください。

<https://www.graat.co.jp/case-study/ebaad-aupay>

○グロースエキスパートナイズ株式会社

上場取引所：東京証券取引所グロース市場（証券コード：244A）

本社所在地：〒163-0548 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル48階

設立：2008年7月4日

代表者：代表取締役社長 渡邊 伸一

事業内容：エンタープライズDX事業

グロースエキスパートナイズは、株式会社GxPを中心にエンタープライズDX事業に取り組むグロースエキスパートナイズグループの持株会社です。グループ各社の専門性を組み合わせて、顧客企業の組織/IT変革に伴走するDXパートナーとして、DX組織運営・人材育成から企画・UI/UX・アジャイル開発・導入・運用までを一気通貫で支援しております。

コーポレートサイト：www.gxp-group.co.jp

○グロース・アーキテクチャ&チームズ株式会社

デジタル変革を目指す企業において、マイクロサービスやアジャイルに挑戦するチームを支援するITコンサルティング企業です。既存の組織やシステムとの融合を得意とし、企業全体のアーキテクチャ整理や開発プロセス整備などを通じて変革を推進します。

コーポレートサイト：www.graat.co.jp

以 上

◇本件に関するお問い合わせ窓口

グロースエキスパートナイズ株式会社 広報担当

TEL: 03-5990-5423 / FAX: 03-5990-5424

メール：pr@gxp.co.jp